

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の



ぼう ちゅう かん あん ちゅう めい
“忙中閑あり暗中明あり”

その 24

やましたた
～ 山滴る ～

中国の北宋の画家郭熙の画論に、「春山淡冶にして笑うが如く 夏山蒼翠にして滴るが如く 秋山明浄にして粧うが如く 冬山惨淡として眠るが如し」という言葉があります。

山は四季折々に違った様相を見せます。

眠りから覚め、一斉に芽吹く春は「山笑う」、青葉が茂り、その青さが水も滴るように美しい夏は「山滴る」、紅葉や黄葉で色づく秋は「山粧う」、草は枯れ、木々はすっかり葉を落とす冬は「山眠る」、と郭熙は表現するのです。

どの言葉をとって山への思いがこもっていて、自然を受け入れ時には対峙しながらも共生してきた人々の姿がそこにあります。

まさに画家としての感性がとらえた山の形容であり、画家ならではの色彩感覚にあふれた言葉です。

自然あふれる能代に住む我々であればこそ、この思いを大切にしたいものです。

能代市長 齊藤滋宣



2012北信越かがやき総体バスケットボール競技開催地の金沢市実行委員会に大会旗を引き継ぎました。(8月2日、北東北総体バスケットボール競技閉会式にて)